令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立延山小学校

「令和８年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

国語科

（１）　国語科の定着状況についての概要

令和８年４月に、２～６年を対象として実施した国語科の調査において、国語科全体の正答率は、目標値より同程度または上回る良好な結果となった。基礎的な読解力や聞く・話す学習内容の定着には確かな成果が見られる。一方で、漢字の読み書きや条件に沿って文章を書く項目において目標値より下回る学年もあり、課題も明らかになった。

今後は、くり返し漢字練習に取り組ませたり、漢字テストを活用したりしながら漢字の確実な定着を目指すとともに、国語科の学習以外でも、自分の思いや考えを文章にする学習にくり返し取り組ませたりすることで、語彙力を高めていく。

（２）学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
2 年	全体的に文章の読み取り、聞き取りの内容を正しく理解できていない。	文章と図を結びつけて必要な情報を見付けることが十分にできておらず、求められている情報を正確に理解することが難しい。
3 年	話の要点を意識して、集中して聞き取ることができない。 漢字が定着していない。	話の聞き方を意識して聞くことができない。 要点が何かを意識して聞けていない。 漢字を日頃から、読んだり、書いたりする機会が少ない。
4 年	叙述を基に文章の内容を捉え、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。	中心となる語や文を見付ける練習量が不足している。また、要約の仕方が分からない。
5 年	漢字の正確な定着に課題が見られる。 複数回答しなければならないことを１つしか答えられない。	漢字や言葉の意味を正しく理解できていないので、習った漢字を使うことができない。 要点をつかむことが難しく、正しく問題を理解できない。
6 年	言葉の意味を正しく理解したり、漢字を書き取ったりすることができない。 自分の考えを示す文章を書くことに苦手意識がある。	前年度までの漢字が定着していない。 記述問題においては何を書けばよいのか正答が見通せない、また考えをより明確にするための根拠がもてていない。

（３）　課題解決のための方策

① 音読や繰り返しの漢字学習を宿題やチャレンジタイムに取り入れる。
② 日記等で文章を書くことに慣れさせる。
③ 文章構造をとらえる学習に重点を置いて指導する。
④ 他教科においても自分の思いや考えを文章にする学習にくり返し取り組ませる。

「令和８年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

社会科

（１）社会科の定着状況についての概要

令和８年４月に、４～６年を対象として実施した社会科の調査において、社会科全体の正答率は、目標値より同程度または上回っていたので、社会科の学力定着状況は、おおむね良好であるといえる。

資料の読み取りについて課題も見られるので、写真、グラフ、表などさまざまな媒体の資料に触れさせる学習を継続し理解を深めていく。

（２）学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
4 年	四方位を理解していない。地図や地図記号を正しく読めていない。	四方位や地図・地図記号に対する知識が身に付いていない。
5 年	資料を正しく読み取ることができない。 自分の考えを表現することができない。	問われていることを理解できていない。 自分の考えをもつことができない。
6 年	日本の水産業、食料生産、工業生産など産業に関する問題が解けていない。	どの設問も資料を適切に読み取ったり、判断したりすることができていない。 産業の課題は読み取れる一方で、課題解決のためにどのような取り組みを行っているのかまでを理解することができていない。

（３）課題解決のための方策

① 資料の細かい読み取り方を、他教科と関連させながらくり返し行う。
② 社会科以外でも他国の話をするときには地図帳などを活用して位置やその地域の気候的特色についても話題にし、興味をもたせる。
③ 知識をおさえることだけでなく、対話的な学習方法を取り入れていく。
④ 毎時間学習感想を書く時間を設けるなど、書く活動の時間を確保する。また、よい記述を共有する。

「令和８年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

算数科

（１）算数科の定着状況についての概要

令和８年４月に、２～６年を対象として実施した算数科の調査において、６年生の算数科全体の正答率は、目標値より上回る良好な結果となった。一方で、２～５年生の基礎的な計算力はおおむね定着しているものの一部の単元において目標値を下回る結果となった。

くり返し計算問題に取り組むことで基礎的な学力の定着には一定の成果があったが、知識を活用して解決する応用力に課題が見られる。問題解決型の授業を展開し、自分の考えを式や図などで書き表しながら考える時間をしっかりととるなど指導法を工夫していく。

（２）学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
２年	計算の基本的な知識・技能は身に付いているが、問題から必要な情報を読み取り、立式することを苦手とする児童が多い。	日頃の学習では単元名から式を決めてしまい、文章題において必要な情報を自分で読み取る活動が十分でなかった。
３年	長さやかさの単位が理解できていない。 繰り上がり２回や波及的繰り下がりありの計算が、習熟できていない。 グラフを読み取って、表に表すことが苦手な児童が多い。	長さやかさの単位について、忘れている。 筆算で繰り上がり、繰り下がりの表記ができていない。 グラフや表を正しく読み取ることができない。表への表し方の理解ができていない。
４年	乗法の結合法則を利用した計算の仕方を説明できない。	簡単な計算問題を解けても、その計算の仕方の本質的な理解ができていない。
５年	分数の真分数、仮分数、帯分数を正しく理解できていない。 問題と式が結びついておらず、どの数を□や○で表したらいいのか分からない。	算数で使用される言葉の意味を理解できていない。 問題文の構造や問いが求めていることを正確に把握できていない。
６年	偶数と奇数の仲間分けができていない。 面積を正しく求めることができていない。	偶数と奇数の概念は理解していても、それぞれを足すと偶数になるのか奇数になるのか判断できていない。 台形の面積の公式を理解しておらず、正しく求めることができていない。

（１） 課題解決のための方策

① 授業の中で算数的なプロセスを言語化・視覚化していく活動を取り入れる。

② 日常生活の中で触れたり、さまざまな問題に取り組んだりして、問題演習を積み重ねる。大きさの量感については、実際に見る、地図上に表すなどの工夫をする。

③ 図形の学習においては、それぞれの図形の特徴を復習し、教室掲示をしたり、くり返し問題練習をしたりすることが必要である。また、道具に慣れるよう、作図する機会を増やす。

④ 授業や家庭学習で様々な計算問題に取り組ませ、習熟できるようにする。

「令和８年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

理科

（１）理科の定着状況についての概要

令和８年４月に、４～６年を対象として実施した理科の調査において、理科全体の正答率は目標値より下回る結果となった。用語の定着だけでなく、体験的な活動を取り入れ、時間や場所の確保をするなど指導法を工夫し、学力の定着を目指す。

（２）学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
4 年	昆虫の体のつくりについて理解できていない。	胸の部分を、腹と考えている場合が多かった。または、両方を含めて腹と考える場合が多かった。
5 年	骨のはたらきについて理解できていない。 実験結果を推測できない。	知識が自分の体験と結びついていない。 実験結果と予想を結びつける視点が不足している。
6 年	全体的に理科の学習内容の定着が十分でない。 顕微鏡の使い方においては、理解できている児童が非常に少ない。	理科については学習内容が全体的に定着できていない。 顕微鏡に触れる機会が少なかったために、顕微鏡の使い方についての理解が低く、顕微鏡の各部の名称が身に付いていない。倍率の求め方についても理解できていない児童が多い。

（３）課題解決のための方策

① 体験的に理解させる。教師が法則を提示するのではなく、児童が比較、関連付けたり、きまりを見付けたりするような学習過程を設定する。実験や観察の中で用語の解説をくり返し行い、使う機会を増やすなどして、用語の定着を図り、理由を説明できるようにする。

② 問題の設定や課題、予想、考察などの場面で、言葉だけでなく図やモデルなどを活用して表現する学習を進めていく。

③ 実験までの流れをより丁寧に確認し、実験内容を理解した上で実験をさせるようにする。

④ 系統的な学習を意識し、単元の始めには既習事項の確認をする。

「令和８年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組」

英語科

（１）英語科の定着状況についての概要

令和８年４月に、６年を対象として実施した英語科の調査において、英語科全体の正答率は、目標値より上回っていたので、英語科の学力定着状況は、おおむね良好であるといえる。

今年度の取組として、授業の導入で母音と２字１音の音の確認する時間を設けたことで、アルファベットを書いたり、単語を読んだりできるようになり改善が見られてきている。

（２）学年ごとの課題・原因

学年	具体的な課題	課題の原因として考えられること
6 年	会話や英作文など英文に対する理解が平均より低い。	英作文の問題においては、無回答が多く、例文を参考にしても適切な語句を用いて表現することができない。

（３）課題解決のための方策

例文がある状態で作文する活動を多く取り入れ、適切な語句を自ら用いるように指導をする。また、必要に応じて児童に給与されている「Picture　Dictionary」を活用するよう声を掛け、語句の習得を目指す。